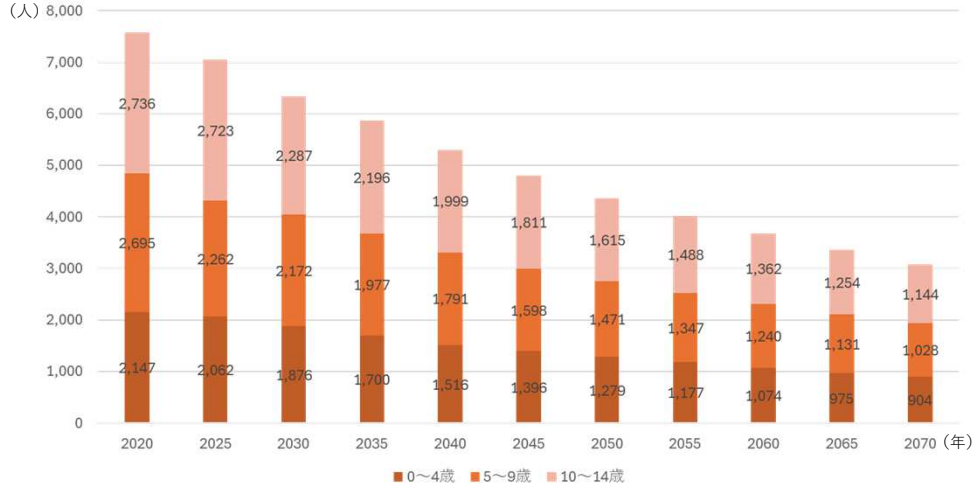


小中学校の在り方に関する意識調査 結果の概要

田原市の将来人口推計

- 田原市の0～14歳の子供は2070年時点で3,076人と2025年時点の7,047人の半分以上まで減少する見込みとなっている。
- 小学校の在り方について中長期的な視点からの検討が必要な状況になっている。



子ども達の意見（アンケート調査結果のまとめ）

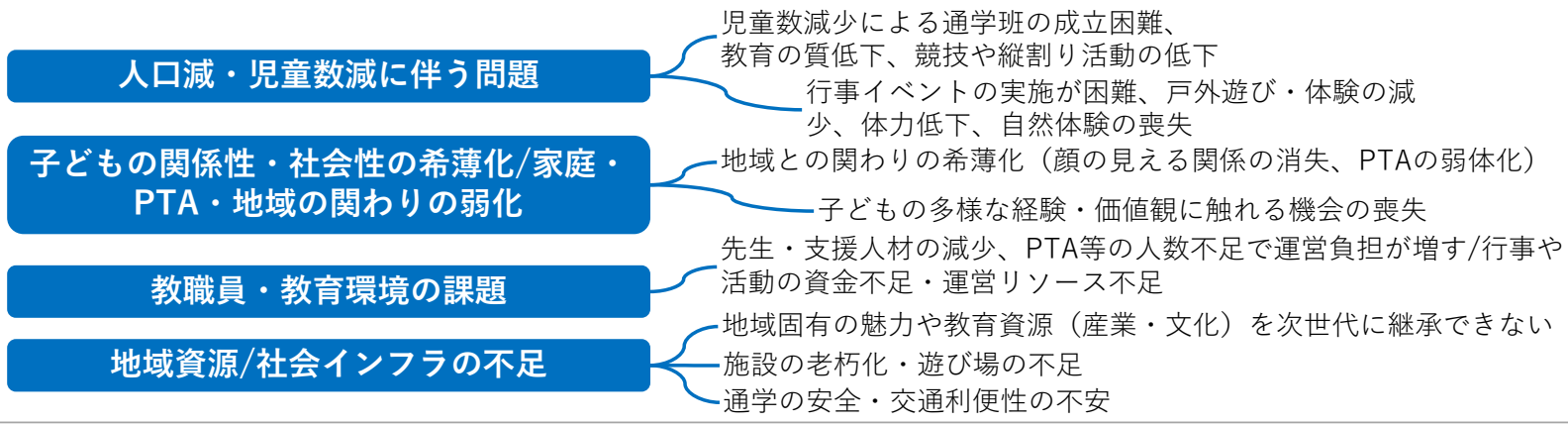
- 多様な学びや地域との関りを強化するニーズが見られた。
- 同級生数は現状より少し多い環境としたい声が多かった。

	内容
将来のこと	<ul style="list-style-type: none"> 「一度は田原市から出てみたいがまた戻ってきたい」が53%であった。 自分のやりたいことができるから、自分のやりたいことができないから等の理由で田原市を一度は出たいと考えている割合が50%程度。
学びたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 学びたいことや総合的学習の時間の拡充について、総じて希望する声が多かった。希望する内容が児童ごとで異なっていた。
学ぶ環境のこと	<ul style="list-style-type: none"> バス通学への抵抗がある児童は少ない。逆に、既にバス通学を経験していると、徒歩通学に代わることへの抵抗感の方が高かった。 同級生数は理想は現状より少し多い環境とする声が多く、家から遠くバスで通うが同級生が多い学校が選ばれていた。 オンライン授業を希望する声は多かった。複式学級に抵抗感がある声が多く見られた。授業の形式は児童の意向を踏まえながら柔軟に考える必要がある。
地域との関りのこと	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人と一緒に活動する機会を増やしたいという意見が多かった。その機会を児童の学びにとって良い影響を出すことが期待される。

※具体的なデータの一部は裏面参照

保護者・地域の主な意見（ワークショップ結果のまとめ）

- ワークショップにて保護者や地域住民から将来に向けた課題は多くあるものの、課題解決に向けた方向性の意見が多数挙げられた。



課題解決の方向性案

- 統廃合
- ネットワーク化
- 特色化
- デジタル化
- 地域との連携強化